

立命館中学校・高等学校 2020年度 学校目標年度末報告シート

区分	教育目標		中期目標		D. 自己評価	E. 具体的施策 (どのような方法で)
	A. 課題 (上位目標)	B. 目標 (中位目標)	C. 達成目標 (当年度目標)	D. 自己評価		
I	学習習慣の確立を促す支援	1 基本的な生活習慣の確立と定着に向けた指導の徹底	(1) 朝のSHRについて、遅刻を許さない環境づくり (特に高校)	○	① SHRでの活動についての、生徒の主体的な取り組みの検討・創意工夫 ② 手指消毒奨励も兼ねた朝当番設置による校舎入り口での遅刻指導 ③ それぞれの授業での開始時と終了時における「あいさつ」の励行 ④ 生徒会や朝当番教員による挨拶運動の実施 ⑤ SNSなど、放課後や帰宅後の時間の過ごし方に関わる啓蒙と家庭との協力体制の確立システムを活用した、生徒・保護者へのサポート ⑥ 「教育支援センター」の立ち上げと、児童相談所などとの連携を通じた指導の充実	
			(2) 各授業におけるはじめと終わりの規律の徹底 (あいさつ、切り替え)	○		
			(3) 家庭学習の時間確保に向けた、各家庭との協力・啓蒙	△		
			(4) 生活習慣上に課題を抱える生徒のサポートの充実	◎		
	2 生活改善と人格形成	(1) 「時を守り、場を整え、礼を尽くす」精神の再徹底	○	① 挨拶の徹底(まずは教職員から、クラブ等の自主的取組の促進、モデルクラブへの期待) ② 生活指導部教員などの通学路指導などを通じた通学マナーの徹底 (「地域を愛し、地域から愛される学校」に、モデルクラブへの期待) ③ 障がい者理解の取組の促進 ④ いじめ防止の自主的取組の促進 ⑤ 保護者とともに取り組む、子育てに関する研修などの機会の充実		
		(2) 情緒・感性・豊かな人間性の育成	◎			
	II	カリキュラム改訂に向けた動き	1	(1) 2020年を目途とした、新しいカリキュラムの構築	○	① カリキュラム検討委員会を通じた新カリキュラムの検討と構築 ② 各教科における教育内容・指導内容の精選の議論の深化 ③ 探求型ならびに教科横断的な科目の検討・設定などについての教科を越えた議論の充実 ④ 教員の働き方改革にもつながるカリキュラムの改革
				(2) 「カリキュラム検討委員会」の議論を受けた週時間数や授業設定のあり方の策定と各教科における教育内容・指導内容の再検討	○	
				(3) 新学習指導要領や学校の教育目標に則した学校設定科目等の検討	△	
		授業公開のさらなる日常化と「学びあい」風土の醸成	2	(1) 各教科や各学年での授業公開文化の醸成	△	① 各教科での教員相互の授業公開の実施 ② 各学年やさまざまな機会での公開授業の実施 ③ 執行部教員も含め、教員相互の授業見学と助言のシステム化の検討 ④ 総務・研修部による「授業力向上委員会」の継続的取組の実施 ⑤ 小中校全体の研修の機会における教科会議等、12年間一貫教育を視座にした研修機会の設定 ⑥ 各教科の学力評価指標の策定と定期テストの改善、到達目標の多様化への対応 ⑦ 特に、各教科における「テスト問題」に関してお互いに知り合い学びあう機会の設定 ⑧ 教職大学院との連携、積極活用 ⑨ 本校の教育活動の整理と集中化を実現する新教育課程の策定
(2) 執行部教員をはじめとして教員相互の授業見学・相互助言の日常的实施				△		
(3) 総務・研修部による「授業力向上委員会」の継続とさらなる充実				○		
(4) 立命館小学校の教員とともに授業づくりや学級づくりをお互いに学びあう機会や立命館小中高での生徒の成長を共有する機会の活性化				×		
(5) 生徒の実態に沿い、かつ確実に到達目標を達成する、指導システムの検討				○		
研修の機会の創造と研修の日常化		3	(1) 総務・研修部による「授業力向上委員会」主催の各種研修の継続	○	① 校内研修会の継続的実施と時間確保 ② 校内の研修会の実施内容や課題内容の共有化の工夫 ③ 校外での各種研修会に参加した成果の共有化の方策の検討 ④ 中高連主催の各種研修会への参加率の向上 ⑤ 中高連主催の「私学教育研究大会」のスムーズな運営と積極的参加 ⑥ 教職大学院との協力、附属校教育研究・研修センターのさまざまな企画の活用	
			(2) 校外での各種研修への積極的参加の促進とその成果の共有化への方策の検討	○		
	(3) 附属校教育研究・研修センターとの連携の充実		○			
基礎学力のさらなる充実と高い学力形成	4	(1) 主体的な学習姿勢の形成 (予習・家庭学習時間の拡充) の方策の検討	△	① 多様化する生徒の実態を考慮した各科目の到達目標の設定と、全体の引き上げ、および目標を到達させざる指導 ② 各科目での家庭学習を促す予習や復習の指導の検討 ③ 家庭学習時間調査の実施と、その結果をうけての各教科・学年での方策の検討 ④ 家庭学習を確保する学校生活のあり方の検討を含めた、教育システムの構築への着手 ⑤ 補講の機会の充実、学生TAやICT活用によるサポート体制の充実検討 ⑥ 授業振替原則の徹底、および(やむを得ず)課題対応の場合の課題内容・指導の充実		
		(2) 特に、ファーストステージにおける基礎学力の再徹底方策の充実を受けての、さらなるセカンドステージでの学力向上方策の検討と実施	△			
		(3) 大学で活躍する、高い基礎学力の形成に向けて、ブレントランス・プレズメントテストや学力推移調査結果の向上に向けた取り組みの実施	○			
		(4) 授業振替原則の徹底と自習課題の縮減	○			
生徒の主体的な学習を促す方策の積極的実施 (問題解決型学習・アクティブラーニング等)	5	(1) 高2・高3年全校で実施の「課題研究」の充実	○	① 「課題研究科」での「課題研究」授業の定型化とさらなる高度化への方策の検討 ② 各教科でのレポート、ポスターセッション等の研究活動の充実 ③ JSSFやRSGF、RGSの継続的かつ発展的な実施と高度化と一般化の両立 ④ 特に、SSGやGLの生徒に対する「課題研究」のさらなる高度化への方策の検討 ⑤ 英検・TOEFL・GTECの到達目標の引き上げと整理 ⑥ 英語による授業の拡充の検討と、英語で授業ができる教員を増やす研修の機会		
		(2) ICT環境の充実と積極的活用	◎			
		(3) GJ・GL・SSG等でのグローバル・リーダー育成プログラムの確実な実施	◎			
		(4) 英語運用能力の向上 (英検・TOEFL・GTECの到達度アップ)	○			
キャリア教育の充実	6	(1) CE・SSをはじめとした各コースの高大連携の充実	○	① アカデミックデー・キャリアガイダンスなどの充実 ② 学部スペシャリスト等と大学各学部との連携の充実 ③ 中2「Discovery Social Project (職業体験)」の確実な実施と、実施システムの確立 ④ 過去2年間のCSL(Career Service Learning)の総括と継続的実施の検討 ⑤ 中3からの高校進学や高校での進級の際の他高校入学・転学に関わる安定的な支援体制の構築		
		(2) 自らの進路を主体的に考えさせる進路指導の充実	○			
		(3) 社会と結びつき、キャリアを体験・考えさせる機会の充実	○			
MS等の進路結果の向上	7	(1) 医学部等難関大学の合格者数の確保	◎	① 中3からの4年間MS指導プログラムの確立と充実 ② 他大学・高校等の情報提供とデータ蓄積と分析		
		(2) 中学校から他高校受験や高校での中途転学生徒への円滑な進路指導	◎			
III	生徒会活動・委員会活動・クラブ活動の活性化	1	(1) 学校・学年行事での自主性・主体性や自立心の育成	○	① 各種、各学年の宿泊研修を通して、自立に向けたプログラムの充実 ② 学内協議会、学内懇談会、修学旅行協議会などの充実と広報策の検討 ③ クラブ政策に基づくモデルクラブ・重点強化クラブ・同好会などによる活性化促進 ④ 小学校の「立命科」と結合した「グローバルシチズンシップ育成教材」の開発	
			(2) 生徒会活動や委員会活動への積極的関りを促す指導の検討	◎		
			(3) クラブ活性化政策の推進	○		
	社会貢献活動の充実	2	(1) 地域交流・社会貢献活動の拡充	○	① 地域清掃や吹奏楽演奏などによる地域貢献活動の継続実施と拡充 ② Warm Heart、RIVIO、海外ボランティア活動などの取組みのさらなる充実 ③ CSL(キャリア・サービス・ラーニング)の可能性の追求	
			(2) ボランティア活動の機会拡大	○		
			(3) 震災復興支援の取組みの継続と充実	○		

管理運営課題	IV 「4-4-4」 小中高一貫教育 の推進	1 R-12部長会議での議論 をもとに、12年間一 貫・6年間一貫プロ グラムの見直しと策定	(1) 4-4-4システムの教育体系の総括と見直し・検討	△	① RNK2020での推進体制の総括と見直し ② R-12部長会議での方向性の議論と各ステージ・各キャンパスでの教育の充実 ③ 小中高合同によるカリキュラムの具体的協議の活性化	
			(2) セカンドステージの接続カリキュラムの充実	△		
			(3) サードステージの接続カリキュラムの確立	△		
			(4) 12年間一貫カリキュラムの小中高教員による具体的議論と策定	△		
		2 児童生徒の交流及び小 学生の長岡京登校	(1) G5・G6児童の長岡京登校での教育内容の充実	△		① セカンドステージ推進室による長岡京登校プログラムの企画運営と全校への早期周知 ② 通学・給食・チャイムなどの学校運営上課題の整理と円滑な実施 ③ クラブ活動や諸行事における交流
			(2) 長岡京キャンパスを活用した小学校行事の活性化	△		
	(3) 児童生徒の交流活動の拡充		△			
	V 科学教育・国際 教育の推進	1 科学教育の推進	(1) 第5期SSH事業ならびに人材育成重点事業の円滑な遂行と今後の展望の検討	◎	① JSSF 2020の、今後のあり方を含めた、検討と実施 ② 理数分野における「課題研究」のさらなる充実 ③ 国際共同課題研究の拡充 ④ 科学オリンピック等への参加促進と指導体制の検討 ⑤ 国内外校との連携ならびに立命館をはじめとする大学連携の促進	
			(2) 理系人材の育成数の拡大	○		
		2 国際教育の推進	(1) WWL事業2年目の円滑な実施とさらなる充実と今後の展望の検討	○	① RSGF 2020の円滑な実施と全校的位置づけ ② AA研修等の、特に中学校における海外プログラムの見直し ③ RGS2020の確実な実施 ④ 中学校における希望者対象の海外プログラムの充実の検討 ⑤ GLのプログラムの実施継承と、TAなどの支援の継続 ⑥ GJからのプログラムの検討と継続の実施 ⑦ ホームステイ受入の拡大に向けた家庭支援の充実 ⑧ ギャップタムプログラム(UBC・DCU)への参加者数の拡大 ⑨ 上記の課題を具体的に検討する「国際教育プロジェクト」の立ち上げ	
			(2) 海外プログラムのさらなる充実と整理、および全校への周知	○		
			(3) GL・GJのプログラムの充実	○		
			(4) CE・SSの生徒も含むプログラムの開発	△		
			(5) 上記に伴う、経済的支援策の検討	△		
			(6) 留学生の派遣数並びに受入数の拡充	×		
3 科学・国際教育推進体 制の充実		(1) 国際センターによる国際プログラムの統括	×	① 国際センターへの人員配置の検討と事務体制の検討 ② 国際センターによる、GJ・GL・SSG等のプログラムの企画調整		
		(2) SSH事業の全校的位置づけ化	○			
		(3) WWL連携事業の全校的位置づけ化	○			
I 「働き方改革」に向 けた具体的方策の 推進		1 本校の教員の働き方 関わっての「選択と集 中」の検討	(1) 土曜日のあり方やコース制の見直しについての本格的議論の実施（「教育システムのあり方検討委員会」の提言を受けて）	○	① 定例の教員会議だけでなく、オープンな議論の場の設定と実施 ② 落ち着いた授業に取り組む期間の確保を視座とした行事予定の再構築 ③ ガイドラインに則ったクラブ指導の適切な在り方の確認と追及	
	(2) 行事の精選、各教科活動の充実		△			
	(3) 部活動のあり方の見直し：「文武両道」を保ちつつ（文部科学省「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を受けて）		○			
	2 個々の教員の働き方 「見える化」の促進	(1) 就業規則に関して、現実的運用の整理と適正化	○	① 就業規則に関しては、法人の各部署との連携・協力（土曜日のあり方検討を受けて） ② 教員の健康を保つため、産業医面談の励行と執行部面談の実施 ③ KOTの適切な管理による教員の勤務実態の把握 ④ 「出張・欠勤・遅刻・早退」の届出の励行・徹底 ⑤ 「出張・欠勤・遅刻・早退」の届出状況の事務室との共有		
		(2) 個々の教員の勤務実態の把握と長時間勤務者への面談の実施	○			
		(3) メールシステムでの「出張・欠勤・遅刻・早退」の届出の事務室へのリンク	△			
II 「4-4-4」 小中高一貫教育 システム構築	1 小中高一体運営	(1) 一体運営のための諸組織の再編と、権限・責任の明確化	△	① R-12部長会議ならびにR-12企画運営会議の定期的開催 ② 両キャンパスの教員による「全体教員会議」ならびに「全体研修会」の実施 ③ 両キャンパスでの、執行部会・運営委員会・教員会議の円滑な実施 ④ RNK2020委員会を中心としたさらなる議論の整理とまとめの実施 ⑤ 校務分掌組織の再編に向けて、集中的議論と方針の確定		
		(2) RNK2020体制の総括と見直し・検討	△			
		(3) 「4-4-4」システム実施に伴う諸課題の整理と解決	△			
		(4) 校務分掌組織の再編	×			
III 教員体制の充実 と教育力の向上	1 研修・研究の充実	(1) 小中校での12年間一貫教育を視座においた教員体制の構築	○	① 小中校一貫教育をさらに前進させる、教員定数政策も含めた、運用政策の検討 ② 総務・研修部による「授業力向上委員会」の継続とさらなる充実 ③ 「授業力向上委員会」を中心に、授業の「ルーブリック」評価の検討 ④ 本校の教育活動の整理と集中化を検討する「教育システム将来構想委員会(仮称)」の立ち上げと新教育課程実施に向けての策定の開始 ⑤ 会議におけるペーパーレス化のさらなる推進 ⑥ ICT活用によりシステム導入の検討 ⑦ 教職大学院で学ぶ研修員の成果の向上		
		(2) 小中合同研究会を軸にした校内研修の充実	△			
		(3) 教職大学院や附属校教育研究・研修センターとの連携による諸研修の充実	○			
		(4) 授業公開・授業研究会の活性化	△			
		(5) 授業評価を活用した授業力の向上	△			
		(6) 教員のICT活用と業務のスマート化	○			
	2 生徒の学習支援・いじ め防止	(1) 心のケア・学習支援の体制充実	◎		① 保健部を軸とした学習支援ケース会議の継続的な適宜開催 ② 特別支援教育コーディネーターの育成・配置の検討 ③ いじめ防止対策委員会の適宜開催 ④ 教育相談支援センターを中心とした生徒支援の充実	
		(2) いじめ防止などの生徒状況の早期把握	◎			
IV 地域・社会連携 ネットワークの 拡大	1 家庭・PTAとの連携	(1) 保護者への伝達と周知の徹底	◎	① 配布物の手順の整理、Classiやミマモルメなどの活用 ② PTA活動との連携 ③ 保護者アンケートの結果を活かした教育展開の工夫 ④ 保護者向け研修の拡充		
		(2) 子どもを取り巻く社会状況変化の共有化と緊密な連携による生徒指導	◎			
		(3) 小学校保護者会と中高PTAとの連携促進	○			
	2 立命館清和会・教育後 援会・卒業生父母の会 との連携	(1) 卒業生ネットワークの重視と拡充	○	① 立命館清和会行事への積極的参加や各種寄付への協力 ② キャリアアドバイザーや学部紹介などへの人的支援の依頼 ③ クラブOB・OG会などのネットワーク化		
		(2) 教育活動への協力支援の拡充	○			
		(3) 周年記念事業への寄付等の支援	△			
	3 地域との連携	(1) 長岡京市をはじめとした乙訓地域との教育・文化交流の促進	△	① 地域教員研修等の実施、各種地域への開行事の継続実施 ② 長岡京市や近隣地域の文化芸術活動への施設開放および参加 ③ 地域防災体制への貢献 ④ エコキャンパスとしての環境教育活動の検討		
		(2) 地域防災体制の確立	△			

達成状況	<p>2020年度は、学習習慣の確立を促す支援・カリキュラム改訂に向けた動き、「働き方改革」に向けた勤務管理や具体的なルール作りを意識した教育展開を行うことを最重点課題としてきた。</p> <p>同時に、2020年度は新型コロナウイルスに感染しない学校環境の構築や、生徒や教員の健康・安全に関する意識改革の推進、加えて保護者の理解を得るために奔走した1年であった。まさに正解のない未知の問いに対して常に解を求められ続けた1年であった。これについては、当初の目標等に明記していない事項ではあるが、ここに明記したいと思う。</p> <p>中学校における個々の生徒の学習習慣を築き上げる指導に関しては、この間の学力や学習に向かう意欲の差がますます大きくなってきている状況から、小学校からの内部進学生徒と外部からの入学生を混ぜることを決断した。この混合クラスの実施に加えて、学年の教員集団の不断の努力や、教員集団の全校的なバックアップにより、授業は以前に比較して極めて落ち着いて受けられる状況となった。しかしながら、学力面の底上げという点に関してはまだ課題が残っていると考える。今後、附属校教員の働き方改革もしっかりと実現しながら、さまざまな先進事例に学び、社会全体の教育力も取り入れた支援システムの構築が必要となってくると考えられる。</p> <p>一方で、生徒の心のケアの部分に関しては、スクールカウンセラーのみならずスクールソーシャルワーカーの方々の協力もいただき今年度から設置した、「教育相談支援センター」の様々な取り組みに、今まで以上に大きく前進したと考えられる。今後、この「教育相談支援センター」を中心としながらも、児童相談所などの外部の支援組織ともより緊密に連携し、生徒を支える仕組みをさらに前進させる必要がある。</p> <p>カリキュラム改訂に向けては、多くの教員の議論によって、新しい学校の教育システムづくりに向けた積極的な話し合いが展開された。基幹授業5日制や全体的なコマ数、基本的な教育課程表の確定など2022年度の新カリキュラム始動に向けて議論は大きく前進した。しかしながら、本校の教育目標である、グローバル教育やSTEAM教育などを実現するために必要な、各教科内容を含めた選択科目などの学校設定科目の具体化は2021年度前半期の議論に委ねることとなった。</p> <p>働き方改革に関しては、従来の学校での教員の働き方のありようを抜本的に変革させようとしなければ達成できない課題であり、自主的な裁量に任されていたものを細かく時間単位で管理しなければならないという、コベルニクスのような変化を求められるものとなった。連続勤務や長時間労働を抑制するための厳密な勤務管理は、昨今の働き方改革においては必須のものと考えられる。しかしながら一方で、クラブでの引率指導なども含め、今までと同様たとえ休日を返上してでも頑張りたいと思う教員には、連続勤務が続いているような場合には、休日勤務が認められなくなるなど、結果としてその教員のやる気をそぐことになる可能性もある。教員の健康も守りながら、同時にそのやる気を無くさせないバランスのとれた管理のあり方については、そのシステムやルールの改善など継続して検討する必要がある。</p>	
改善策	<p>学習習慣の確立が不十分なまま中学校にあがってくる生徒は今後も増えてくる可能性を踏まえると、学校の中であっても、現存の教員による指導システムの枠を超えた新しいシステムの検討が必要となってくるだろう。また、個々の附属校のアドミッション・ポリシーと生徒を育てる学校像・教育像を明確にし、入学生や保護者から選ばれる学校であり続ける努力とともに、入学生をより適正に選べるシステムの検討も必要となるだろう。</p> <p>働き方改革に関しては、特にクラブ活動指導に関してもさまざまな考え方があるなかで、一律的に制限をすることは難しいが、社会情勢としても待ったなしの状況であり、何より教員自身が元気に持続可能な楽しい教育展開をすることが一番重要であることを共通認識として、大枠を附属校全体で決めて、各校のペースで進めていくことができればと考える。</p>	
学校関係者評価に関する事項	委員会の構成	PTA会長、PTA副会長2名、清和会会長、父母の会会長、一貫教育担当常務、一貫教育部部長、SSH運営指導委員2名、校長、副校長、事務長、事務長補佐
	委員会開催日程 主な議題	新型コロナ感染防止のため開催せず
	評価、改善事項	